

種別	病原体	発生年月	発生地域	発生状況	報告機関	報告内容	備考	概要
						新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省(平成21年4月28日健感発0428003号)	メキシコや米国で発生している豚インフルエンザ(H1N1)を、感染症法に規定する「新型インフルエンザ」と位置づける。
						新型インフルエンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 May 14	2009年5月14日現在、33か国が正式に6497症例のインフルエンザA(H1N1)感染を報告した。メキシコは検査確認済みの2446症例(死亡症例60例を含む)を報告した。米国は3352症例(死亡症例3例を含む)、カナダは389症例(死亡症例1例を含む)、コスタリカは8症例(死亡症例1例を含む)であった。
						リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 P214 O-152	平成20年8月、仙台市におけるリケッチア症例の報告である。患者血清からR.japonicaに対する抗体が陽性となり、シーケンス解析から極東アジア、ロシア、中国などの患者から報告されているR.heilongiangensisと一致した。現地ドブネズミはR.heilongiangensisに高い抗体価を示し、Haemaphysalis concinnaから患者と同じ遺伝子配列を有するリケッチアを分離した。国内には日本紅斑熱とは異なる紅斑熱リケッチア症の存在が示された。
						ウイルス感染	日本感染症学会第83回総会 P224 O-171	2007年に初めて報告された新興感染症コウモリオルソレオウイルス(別名: マラッカウイルス)による急性上気道炎の報告である。2007年11月にインドネシア・バリ島から帰国した男性は帰国数日前から発熱、関節痛が出現し、帰国後も強い上気道炎症状を呈し、オルソレオウイルス感染症と判明した。本ウイルスはコウモリを宿主とし、本患者はコウモリとの接触はなかったが、渡航先で上気道症状を呈する現地住民との接触があった。本患者では回復期に抗体が検出されたが、他の接触者は全て陰性であった。
						レンサ球菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-173	90479に同じ
	90505					細菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-174	国内初症例であるLactococcus garvieae感染性心内膜炎の報告である。心疾患の既往歴のない55歳女性は発熱が持続し、血液培養からStreptococcus sp.が検出された。感染性心内膜炎と診断され、感染性脳梗塞・感染性動脈瘤を併発したが、9週間の抗菌薬投与の結果回復した。L.garvieaeは養殖魚などへの原因菌であり、ヒトへの感染は希である。海外では13例目の感染報告であり、感染性心内膜炎としては9例目の報告である。

ID	受理日	種別	製薬会社	一般名	学名	剤形	原産国	有効成分	有	無	無	真正 使用 検査	感染症 (PT)	出典	概要
													真菌感染	日本感染症学会 第83回総会 P239 O-201	ヒトからのStephanoascus ciferrii検出例の報告である。国内では猫からの検出報告はあるが、ヒトからの検出は非常に稀である。78歳男性の中耳炎治療において、Candida属とは異なる酵母様真菌を検出し、同定検査の結果Candida ciferriiと同定された。
													ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360; 2099- 2107	New Yorkの62歳の男性は、シカダニウイルスに感染したシカダニの咬傷後に髄膜脳炎で死亡した。これまでシカダニウイルスのヒト感染は報告されていないが、この症例はシカダニウイルスが致命的脳炎の原因でありえることを示している。
98	2009/9/18	90506	持田製薬	日本薬局方 注射 用ヒト絨毛性腺 刺激ホルモン	日局 ヒト 絨毛性腺 刺激ホル モン	ヒト(妊婦) 尿	中国	有効 成分	有	無	無		レトロウイル ス(XMRV)	日本ウイルス学会 第56回学術集会 2P111	90498に同じ
													新型インフル エンザ (H1N1)	厚生労働省(平成 21年4月28日健感 発0428003号)	90505に同じ
													新型インフル エンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 May 14	90505に同じ
													リケッチア症	第83回日本感染 症学会総会 P214 O-152	90505に同じ
													ウイルス感 染	日本感染症学会 第83回総会 P224 O-171	90505に同じ
													レンサ球菌 感染	日本感染症学会 第83回総会 P225 O-173	90479に同じ
													細菌感染	日本感染症学会 第83回総会 P225 O-174	90505に同じ
													真菌感染	日本感染症学会 第83回総会 P239 O-201	90505に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分	原料名	原産国	有効成分	有効	無	無	無	ウイルス感染	出典	概要
99	2009/9/18	90507	持田製薬	日本薬局方 ヘパリンナトリウム注射液	日局 ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	フランス、デンマーク、スウェーデン、イギリス、アイルランド、スペイン	有効成分	有	無	無	無	ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360: 2099-2107	90505に同じ
													インフルエンザ	CFIA News Release 2009 May 2	カナダ食品検査機関(CFIA)からの報告で、豚群にH1N1インフルエンザが検出された。食料供給の安全性には影響がなく、カナダ産豚肉は食べても引き続き安全である。群れは検疫下に置かれ、CFIAは公衆衛生局と共同で作業をしており、これらの豚が人にウイルスを伝播させる機会は取り除かれた。カナダでは豚は呼吸器疾患における通常の検査を通して、全国規模で継続したインフルエンザウイルスの検査を行っている。
100	2009/9/18	90508	持田製薬	インターフェロンベータ	インスリン	ウシ膵臓	該当なし(インスリンは製造において未使用)	製造工程	無	無	無	無			
101	2009/9/18	90509	持田製薬	インターフェロンベータ	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無	無			
102	2009/9/18	90510	持田製薬	硫酸プラジオマイシン/結晶トリプシン インターフェロンベータ	トリプシン	ウシ膵臓	ニュージーランド、オーストラリア、ブラジル	有効成分 製造工程	無	無	無	無			
103	2009/9/18	90511	持田製薬	インターフェロンベータ	インターフェロンベータ	ヒト線維芽細胞	日本	製造工程	無	無	無	無			
104	2009/9/24	90512	フジモト・ダイアグノスティックス	-	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	日本白色種家兔皮膚抽出液	中国	有効成分	無	無	無	無			
105	2009/9/25	90513	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚	日本	有効成分	無	無	無	無			
106	2009/9/25	90514	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ウシ乳	ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無	無			
107	2009/9/25	90515	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ブタ膵臓	日本、カナダ	製造工程	無	無	無	無			

													出典	概要
108	2009/9/25	90516	日本臓器製 薬	ワクシニアウイル ス接種家兎炎症皮 膚抽出液	漿尿膜	発育鶏卵	日本	製造 工程	無	無	無			
109	2009/9/25	90517	日本臓器製 薬	ワクシニアウイル ス接種家兎炎症皮 膚抽出液	ウサギ皮 膚	ウサギ	日本	製造 工程	無	無	無			
110	2009/9/25	90518	味の素	バルナバリンナトリ ウム注射液	バルナバ リンナトリ ウム	健康なブタ の腸粘膜	中国	有効 成分	有	無	無	新型インフル エンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 April 24, 2009 April 27 WHO/Media centre 2009 April 27	<ul style="list-style-type: none"> ・米国、メキシコにおけるインフルエンザ様疾患について：米国政府は米国内の7人の豚インフルエンザA/H1N1確定症例（5人がカリフォルニア、2人がテキサス）と9人の疑いがある症例を報告した。死亡症例は報告されていない。メキシコ政府は3つの別々の事例を報告しており、メキシコ連邦区ではインフルエンザ様疾患が挙がり始め、4月23日までに854人以上の肺炎が発生し、うち、59人は死亡している。 ・豚インフルエンザupdate3：豚インフルエンザA(H1N1)の発生状況は刻々と変化しており、2009年4月27日現在、米国では40症例（死亡例なし）、メキシコでは7症例の死亡を含む26症例で同ウイルスへの感染が確認された。 ・豚インフルエンザ：国際保健規則（2005年）のもと設立された緊急委員会が2009年4月27日、2回目となる会合を開催した。
111	2009/9/28	90519	ジェンサイ ム・ジャパン	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換 え)	ドナー子ウ シ血清	ドナー子ウ シ血液	ニュージ ー ランド	製造 工程	無	無	無			
112	2009/9/28	90520	ジェンサイ ム・ジャパン	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換 え)	アガルシ ダーゼ(遺 伝子組換 え)	遺伝子組 換えチャ ニーズハ ムスター 卵巣細胞	宿主細胞株は、 Dr. L. A. Chasin(Columbia University)より 入手したジドロ 業酸還元酵素欠 損チャイニーズ ハムスター卵巣 細胞の細胞系	有効 成分	無	無	無			
113	2009/9/28	90521	日医工	ウリナスタチン	ウリナスタ チン	ヒト尿	中華人民共 和国	有効 成分	無	無	無			
114	2009/9/28	90522	日医工	ダルテパリンナトリ ウム	ダルテパ リンナトリ ウム	ブタ小腸粘 膜	中華人民共 和国	有効 成分	無	無	無			
115	2009/9/28	90523	日本製薬	乾燥ポリエチレン グリコール処理 人免疫グロブリン	ポリエチ レングリ コール処 理人免 疫グロ ブリンG	人血液	日本	有効 成分	有	無	無	異型クローツ フェルト・ヤ コブ病	HPAweb 2009 February 17	1996年に血漿を提供し、その6か月後にvCJDを呈したドナーの血漿由来の第8因子製剤を使用した血友病患者について、この度、検死によりvCJD感染が報告された。血漿分画製剤によるTSE伝播の可能性を示唆する初の報告である。

ID	受理日	番号	製造者	一般名	学名	原料名	製造国	有効成分	有	無	無	適正 使用 措置	感染症 (PT)	出典	概要
													B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	日本における、不顕性HBV感染者 (HBsAg陰性) からの輸血によるB型肝炎感染に関する報告。
													新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	新型インフルエンザ (H1N1) の輸血を介した感染可能性について、輸血により季節性インフルエンザに感染した例はこれまで報告されることが無く、新型インフルエンザについても報告されていない。現時点で、輸血のメリットは新型インフルエンザの理論的リスクをはるかに上回る。なお、血漿分画製剤については製造工程におけるクリアランスが十分であることが確認されている。
													パルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	FDAが血漿由来製品の製造業者向けに提供するガイダンス。血漿由来製品の製造に使用される原料血漿および転用血漿用の製造過程において、ヒトパルボウイルスB19を検出するための核酸増幅検査 (nucleic acid test; NAT) を行う事を推奨している。すべての血漿由来製品について、製造プール中のパルボウイルスB19 DNAのウイルス負荷が10000IU/mLを超えない事を保障するために、 ○すべての血漿由来製剤に対し、製造用プール血漿中のHPV B19 DNAの濃度が10000IU/mLを超えないように、工程内検査としてHPV B19 NATを実施すべきである。 ○血漿由来製剤の製造に投入する血漿ユニットのスクリーニングには、ミニプールサンプルに対してHPV B19 NATを実施すること。HPV B19 NATで用いるプライマーおよびプローブは、このウイルスの既知のすべての遺伝子型を検出できるものを用いること。 ○血漿由来製剤の製造に投入する血漿ユニットに、製造用プール血漿のHPV B19 DNA濃度が104IU/mLを超えるような高値を示すものが見つかった場合は、当該血漿ユニットは使用しないこと。
116	2009/9/28	90524	日本製薬	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	日本	有効成分	有	無	無		異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb 2009 February 17	90523に同じ
													B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	90523に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
													パルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
117	2009/9/28	90525	日本製薬	トロンビン	トロンビン	人血液	日本	有効成分	有	無	無		異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb 2009 February 17	90523に同じ

ID	承認日	承認番号	製薬会社	成分	剤形	血液	国	有効成分	有	無	無	疾患(PT)	出典	概要
												B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	90523に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												バルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
118	2009/9/28	90526	日本製薬	加熱人血漿たん白 人血清アルブミン (5%) 人血清アルブミン (20%) 人血清アルブミン (25%)	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb 2009 February 17	90523に同じ
												B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	90523に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												バルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
119	2009/9/28	90527	ベネシス	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分 添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurology 2009; 8: 57-66	BSEプリオンに対するヒトの感受性についてSNPを解析した。PRNP遺伝子座はプリオン病のいくつかのマーカーと全てのカタゴリーを通じてリスクに強く関連していた。疾病リスクへの主な寄与はPRNP多型コドン129であったが、別の近傍のSNPによってvCJDのリスク増大がもたらされた。
												コクシジオイデス症	CDC/MMWR 2009; 58: 105-109	カリフォルニア州におけるコクシジオイデス症の報告数及び入院数は2000~2006年の間毎年増加しており、1995~2000年の3倍以上(8/10万人)となった。米国のコクシジオイデス症全体の約60%を占めるアリゾナ州でも同様で、2006年には5,535例(91/10万人)と増加している。米国全体でも、1996年の1,697例から2006年には8,917例(6.97/10万人)に増加しており、流行地への訪問や居住歴のあるインフルエンザ様症状や肺炎、播種性感染症の患者では本症が鑑別されるべきである。

ID	発症日	患者	感染経路	年齢	性別	職業	居住地	滞在歴	旅行歴	検査項目	検査結果	出典	概要
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96; 270	1995年から3回/週でIVIg治療を受けていた61歳女性は、1997年1月～1998年2月の期間に、後にvCJDを発症した供血者由来の製剤を使用していた。この女性の死亡後、剖検により脾臓、リンパ節、脳内のプリオン蛋白を検査したが、検出されなかった。
											細菌感染	日本細菌学雑誌 2009; 64; 220	Anaplasma phagocytophilumによるアナプラズマ症の本邦初の症例。2002～2003年の高知県で日本紅斑熱が疑われた18例の血餅から、2例で、A. phagocytophilumに特異的なp44/msp2外膜蛋白遺伝子群のPCR産物が検出された。
											新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
											新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
											新型インフルエンザ (H1N1)	Science 2009; 10.1126/SCIENCE .1176062	新型インフルエンザA(H1N1)ウイルスは世界中に急速に広がっている。パンデミックの可能性を判断するのはデータが限られているため難しいが、適切な保険対応を伝えるには必須である。メキシコでの大流行、国際的な広がりの早期情報およびウイルス遺伝的変異について分析することにより、感染力と重症度の早期評価を実施した。
											リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 2009 April 23-24	平成20年8月、仙台市においてリケッチア症を疑う患者が発生した。生検材料を用いたPCRにより陽性であったが、シーケンス解析により、ロシアや中国の患者から報告されているR.heilomgiangensisに一致した。国内に、日本紅斑熱とは異なる紅斑熱ケッチア症が存在することが示された。
											ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360; 2099- 2107	90505に同じ
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA 2009 May 22	2004年にHealth Protection Agencyは扁桃腺に蓄積されたvCJD関連プリオンタンパク質の大規模な調査により、無症候性vCJD保有率を検討するNational Anonymous Tissue Archive(NATA)を開始。既に63000例の扁桃腺組織の収集・解析を行っており、100000例まで収集する計画であるが、現在のところ陽性サンプルは一つもなかった。

種別	発症日	年齢	性別	国籍	居住地	職業	感染経路	診断	検査	治療	経過	感染症 (PT)	出典	概要
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMRW 2009; 58: 521-524	05～06年、06～07年、07～08年の季節性インフルエンザワクチン接種コホートの保存ベア血清を用いて、新型インフルエンザウイルスの交差反応性を検討した。18-64歳ではワクチン接種前に6～9%、60歳以上では33%が交差反応を示した。ワクチン接種後には交差反応を示した例が18-64歳で2倍程度に増え、60歳以上では全く増えなかった。
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2009; 4: e1000455	2008年に南アで発生した致死性出血熱のアウトブレイクにおいて、30年ぶりに新規の旧世界アレナウイルスが分離された。発見された地名 (Lusaka, Johannesburg) より、Lujo virusと命名された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 2009 June 5	血友病患者の脾臓中に異常プリオン蛋白質が発見されたことを受け、CJD事故委員会の要請により「vCJD Risk Assessment Calculations for a Patient with Multiple Routes of Exposure」報告書がDepartment of Healthによって作成された。感染可能性のある種々の経路を設定し、それぞれの相対的な感染確率を検討した報告である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/TSE advisory committee 2009 June 16	英国でvCJDに関連した凝固因子製剤を11年前に投与された血友病患者のvCJD感染の報告を受けて、米国におけるリスク管理戦略を再評価した。その結果は、米国で承認されている第Ⅷ因子製剤からのvCJD感染のリスクは極めて低いと考えられるが断言はできない、という従来と同様の評価である。
												アメリカ・トリパノソーマ症	FDA Guidance for Industry(draft) "Use of Serological Tests to Reduce the Risk of Transmission of Trypanosoma cruzi Infection in	Trypanosoma cruzi抗体検出用のELISA検査システムがCBERにより許可されたことをうけ、米国において、全血、血液成分及びHCT/Plsにおけるトリパノソーマ症伝播のリスク低減のためのドナースクリーニングについて、FDAよりドラフトガイダンスが公表された。最終版発表後1年以内にこのガイダンスに適合することが推奨されることとなる。
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; 773-778	2009年5月28日、Dallas County Department of Health and Human Services (DCHHS)は5月18-28日に、ダラス郡 (County) 内で入院した、新型インフルエンザA感染に関連した神経系の合併症を伴う4例の小児についてCDCに報告した。これまで季節性インフルエンザの気道感染に関連した神経系の合併症は報告されているが、新型インフルエンザに関しては報告がない。患者は7, 10, 11および17歳であり、ILI (influenza-like illness: インフルエンザ様症状)の症状と痙攣もしくは精神状態の変化のため入院し、3例に脳波に異常が認められた。また、4例すべてに新型インフルエンザA (H1N1)ウイルスRNAが鼻咽頭検査では認められ、脳脊髄液からは認められなかった。4例すべては回復し、神経学的後遺症はなかった。